

カリウム施用による放射性セシウムの移行低減技術 (水稲、大豆、そば、牧草)

- ・カリウムの増施によって、放射性セシウムの土壌から作物への移行を低減できることを明らかにしました。
- ・生産者が実施可能な緊急対策として、放射性セシウム吸収抑制のための土壌の交換性カリウム目標値を示しました。

■技術開発の背景

東京電力福島第一原子力発電所の事故により、東日本の広大な農地が放射性セシウム等で汚染されました。被災地の早期営農再開と消費者の食品を通じた内部被曝の低減を図るため、土壌から作物への放射性セシウムの移行を低減する技術開発が求められました。

■カリウム施用と作物の放射性セシウム吸収との関係

各地域のほ場試験により、①カリウムの増施により作物の放射性セシウム濃度が低減すること、②土壌のカリウム供給力(交換性カリウム)が低いと放射性セシウムの作物への移行が高まること、を明らかにしました。

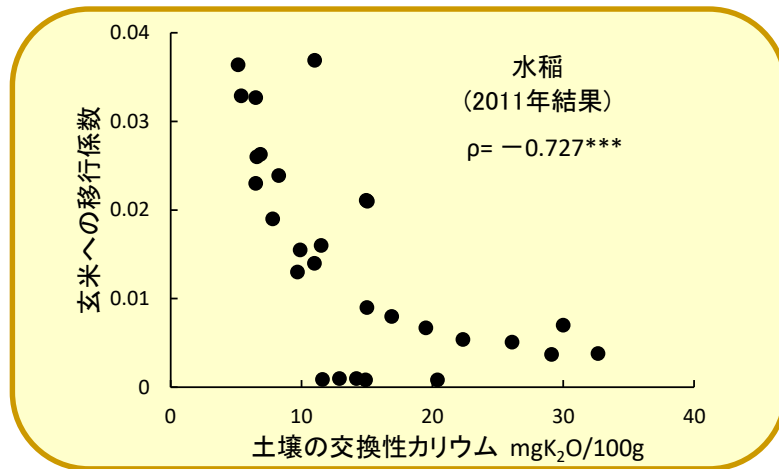


図 土壌の交換性カリウムと移行係数(※)の関係(水稲の例)
※土壌の放射性セシウム濃度に対する玄米の放射性セシウム濃度の比

■放射性セシウム吸収抑制のための交換性カリウムの目標値

放射性セシウムの吸収抑制のための交換性カリウムの目標値を示し、生産者が実施可能な緊急対策技術を確立しました。

この成果に基づき、平成25年には、水稲約8万4千ha、大豆約9千ha、そばと牧草それぞれ約2千haでカリウム資材の増施による放射性セシウムの吸収抑制対策が行われました。

表 放射性セシウム吸収抑制のための
交換性カリウムの目標値

	交換性カリウムの目標値 (mg/100g)
水稲	25
大豆	25
そば	30
牧草※	30~40

※更新草地の場合

☎ 詳しい情報を知りたい、という方はお気軽にご連絡ください。

(国研)農研機構 連携広報部 広報課

TEL: 029-838-8988

Email: www@naro.affrc.go.jp